

指導教員によるコメント

方穎琳さんは、2010年8月末から9月末までの1カ月の間、「女性リーダーを創出する国際拠点の形成」プロジェクトに係わる支援により、中国（湖南省、広東省、上海市）においてデータ収集及び文献調査を行いました。その成果を以下のように博士論文に活かしていく予定です。

まずデータについてですが、日本語学習者の日本語レベルを事前テストにより正確に測定した。総数で30組のデータ収集を行った。自然会話とタスク型会話という二種類のデータ収集を行った。ビデオカメラを用い非言語行動を含む分析が可能になった。という点において、博士論文執筆に向けて修士論文で収集したデータを質・量の両面で補完するのに十分なデータを収集することができました。

次に文献調査ですが、日本国内では入手することのできない中国の文献を収集し、分析を行うことによって、これまで中国では談話・会話分析の手法による研究は少ないと言われていたのが、実際にはかなりの量のレベルの高い研究が行われていることが明らかになりました。今回の調査を踏まえ、日本語による文献、中国語による文献、英語による文献のレビューを行うことによって、CS研究の現状と今後の展望をより正確に把握することが可能になりました。

以上のように、今回の方さんの海外調査研究は、1カ月という短期間の間に博士論文の執筆に向けて貴重なデータの収集および文献調査を行った点で高く評価いたします。

佐々木 泰子（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 教授）